

エピローグ しかしながら、近年のモータリゼーションの普及はめざましく、このような社会環境の変化の中でチンチン電車がみなさんの足として活躍することがだんだん困難になってきました。かつては福島の社会を維持し、経済発展に多大な貢献をしてきたチンチン電車も、今度は福島のひいては東北の経済発展のために潔きよく身を引くことにいたしました。チンチン電車のあとはみなさんの足として最もふさわしい交通機関であるバスに代ります。どうぞチンチン電車を育ててくださった以上にバスを可愛がってください。

お別れするにあたり、永い間のご愛顧に深甚なる感謝の意を表し、折につけチンチン電車を懐かしく思い起して下さいますようお願いを申しあげお別れいたします。

ほんとうに永い間ありがとうございました。さようなら さようなら さようなら



写真12

参考資料

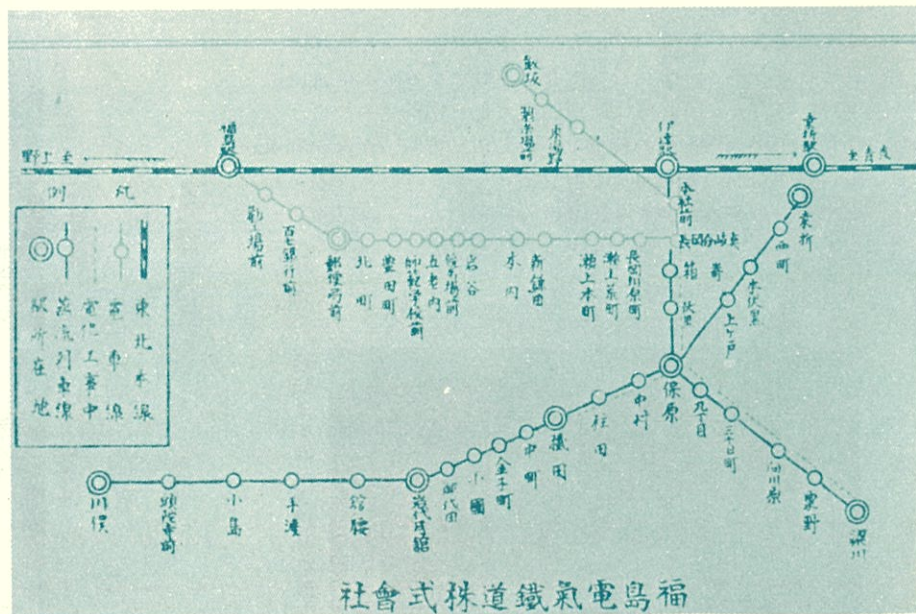
- 明治40年7月6日 雨宮敬二郎他29人の信達軌道(株)発起人に
対し軌道敷設特許
- 明治41年4月14日 福島～長岡 } 運転開始
長岡～飯坂 }
- 明治41年7月13日 長岡～保原 運転開始
- 明治41年4月21日 信達軌道(株)に対し軌道敷設特許
- 明治43年6月18日 保原～梁川 運転開始
- 明治44年4月8日 保原～掛田 運転開始
- 大正4年12月13日 川俣～掛田 運転開始
- 大正6年9月6日 信達軌道(株)設立(本社伊達町)
- 大正7年1月8日 信達軌道(株)において大日本軌道(株)の全事業を承継
当時の車両数 機関車11両、客車9両、客貨合造車1両
貨車18両
- 大正11年4月11日 保原～桑折間 運転開始
- 大正11年5月19日 機関車の飛火により鎌田村大火(40戸全焼)地元民の妨害的行為により18日間、福島～長岡運休
- 大正14年10月16日 電化工事の為の工事方法変更許可
- 大正14年10月23日 鉄道第2聯隊の演習作業として
大正14年11月12日 福島～長岡～飯坂のレール引換工事
- 大正14年12月24日 信達軌道(株)を福島電気鉄道(株)に改称
- 大正15年4月6日 福島～伊達～飯坂 電化開通
- 大正15年11月6日 伊達～保原 電化開通
- 大正15年12月2日 保原～掛田 電化開通
- 大正15年12月21日 保原～梁川 電化開通
当時の車両数 電動客車11両、客車6両、貨車16両、機関車13両、客車6両、客貨合造車1両、貨車27両
- 昭和2年6月28日 保原～桑折 } 軌道廃止
掛田～川俣 }
- 昭和20年3月1日 飯坂西線地方鉄道法による営業開始
- 昭和37年7月12日 福島電気鉄道(株)を福島交通(株)と改称
- 昭和42年9月16日 聖光学院前～湯野町 軌道廃止

(ここに記念スタンプをどうぞ)

チンチン電車記念品発売中

中合1階北入口側特設コーナー

- 文鎮(銅に銀メッキ)..... 800円
- メダル(銅に銀メッキ)..... 200円
- キーホルダー(銅に銀メッキ)..... 250円
- 銅メダル..... 150円
- 銀メダル..... 1,500円



大正15年の運行路線図

栄光の軌跡.....

**路面電車
半世紀のあゆみ**



ごあいさつ

利用者の皆様、永い間のご愛顧まことにありがとうございました。

大正6年、信達軌道株式会社として産声をあげて以来、みなさんの足として、みなさんと共に歩み続け、福島の歴史の1コマを作ってまいりました路面電車が4月11日で姿を消すことになりました。

半世紀の歴史の中には幾多の困難がありましたが重要な交通機関の1つとしてたくましく成長してまいりました。

しかし近年の高度経済成長によるモータリゼーションの驚異的な発展と、それに伴う都市形態の変化は近代的交通機関に要請される安全性・正確性・利便性といった諸要素

を路面電車から奪い去ってしまいました。

このようにして、路面電車が使命を終え、半世紀にわたる歴史を閉じることは、まことに感無量のものがございます。

当社といたしましては地域社会から要望される近代都市交通の体系を早急に確立すべく今後も全力を傾注してまいり所存でございます。

ここに永年にわたるご愛顧に対し、深く感謝申し上げると共に、よりサービス向上に努めることをお約束し、かわらぬご指導とご利用を賜りますよう懇願申し上げご挨拶いたします。

福島交通株式会社 取締役社長 **小針啓二**

プロローグ 老いて去り行くは社会の法則とはいえ、その過去が華やかであればあるほどその寂しさは大きい。再び我々の眼前に姿を現わすことのない路面電車ではあるがかつては栄光を一身に受けた良き時代もあった。そこで、消え行く路面電車の歴史を大まかにたどってみよう。

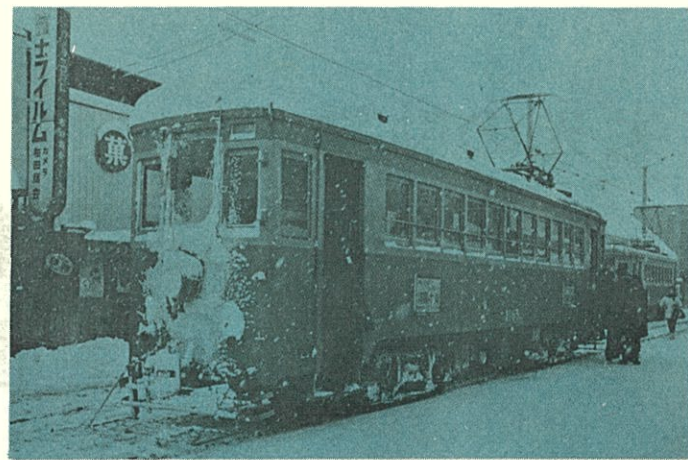


写真1 風雪に耐えて

Act 1 軽便時代

明治39年から40年にかけて、信達地方を中心として軽便鉄道の敷設計画が進められ明治41年4月14日この地に軽便が走り始めた。そして当地の有力者を中心に大正6年9月6日資本金100万円をもって信達軌道株式会社を設立(本社伊達町)。翌年1月8日大日本軌道株式会社の全事業を承継する。

当時は軽便といわれる蒸気機関車が最高時速20kmで走っていた。この軽便の大敵は大雪でしばしば運休になっていたようである。残された数少ない資料をみると次のような記録があり当時の事情をよく物語っておもしろい。

大正7年の営業の概況から

大正7年1月8日大日本軌道株式会社ヨリ事務ノ引継ヲ為シ同10日是を完了セシ時恰モ降雪多クシテ尺余ニ達シ3日間ハ殆ド運転休止ノ状態トナレリ 越テ翌月下旬ニ至ルモ積雪依然トシテ多ク営業頗ル困難ヲ来セリ 2月下旬ヨリ3月ニ涉リテハ石炭の輸着甚ダ遅緩ニシテ貯炭、缺乏ヲ囁ク事再三。一方物価騰貴ニ伴ウ生活難ハ従業員ヲ圧迫シテ入退社常ナク從ッテ得レバ從ッテ散スルノ状態ト変シ業務励行ニ困難ヲ感ジタリ…中略…4月ヨリ5月ニ至ッテハ貨物並ニ乗客ノ激増日ニ甚クシキヲ加エタレトモ設備はニ伴ハザルガ故ニ徒ニ時間発着ノ不正確ニ陥リ是レカ改善ニ努メタルモ及ハサル処多カリシハ遺憾トスル所也…以下略

鎌田村大火

大正11年5月19日機関車の飛火により、鎌田村大火となる(40戸全焼) これについても次のような記録がある。

本年5月19日信夫郡鎌田村火災ノ原因ハ当会社運転機関車ノ飛火ナリトノ疑ヲ以テ罹災者ハ其運転ニ妨害的行為ニ出デ又世評之ニ雷同セルモノノ如ク運転上危険ノ虞レアリト認メ爾後18日間福島長岡間之レヲ休止シ6月7日ヨリ運転ヲ開始セリ

この大火後、飛火による火災防止策として煙筒に飛火よけのカバーが取り付けられた。そして、この大火を機に電化促進への動きが活発になってきた。

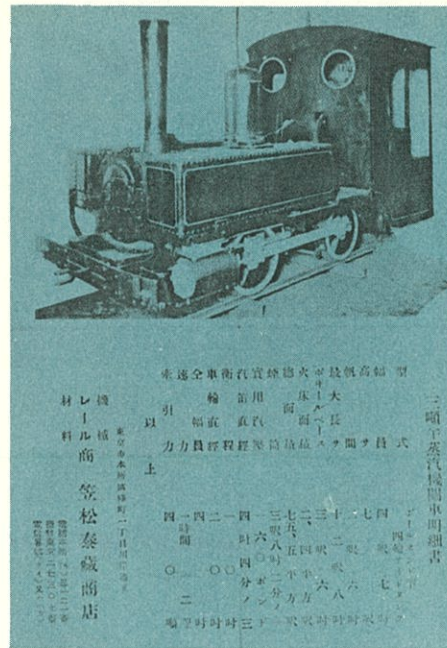


写真2 路面電車の前身である軽便(この機関車は軽便初期のもの)

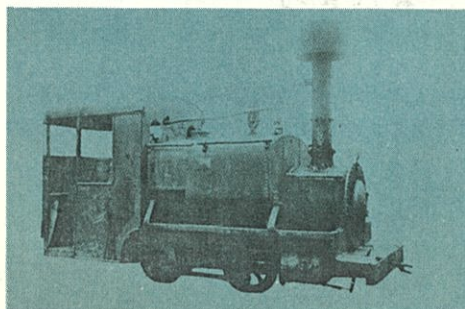
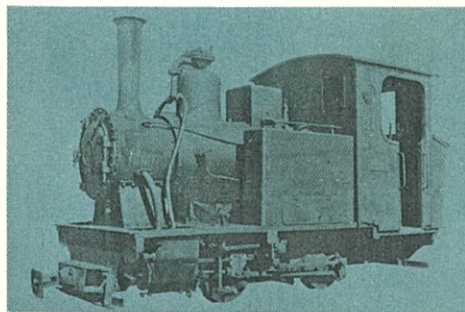


写真3 上 大火前の機関車
写真4 下 飛火防止のため煙筒部を改良した

雨宮製作所製の新型機関車

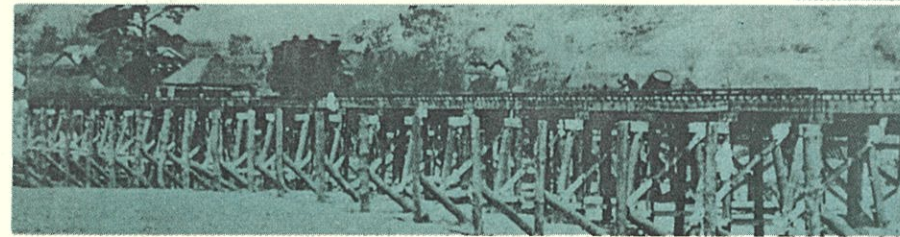


写真5 伊達橋を走る軽便

旧伊達橋架橋前の箱崎、長岡間の木橋、橋が2つかかっており手前の橋が軽便軌道用。そのかげに人道橋がある。当初の架橋は明治37年、その後何回か流されたように記録されている。(伊達町伏黒富田治衛氏所蔵のものから複写)

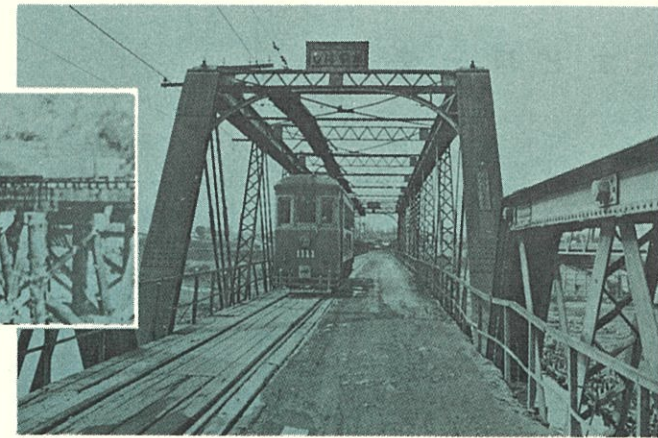


写真6 現在の伊達橋を走る電車

Act 2 電化促進時代

懸案であった電化工事も第1期線福島～伊達～飯坂間を実行するの機運に至り、大正14年10月16日鉄道、内務両大臣の許可を得て直ちに工事に着手した。

レールの敷設は鉄道第2聯隊の演習作業として実施された。(写真7)そして同年12月24日信達軌道株式会社を福島電気鉄道株式会社と改称した。

この第1期線は大正15年3月31日一切の竣成を告げ、4月6日第1号電車の運転開始に至った。

引続き第2期線電化計画がなされ伊達～保原間を大正15年9月1日起工、10月末竣工し、11月6日から営業を開始した。そして同年12月2日には保原～掛田、12月21日には保原～梁川間が電化開通した。

このように電化が大巾に促進されたが昭和に入り保原～桑折間、掛田～川俣間の軌道が廃止され(昭和2年6月28日)蒸気機関車は姿を消した。

昭和2年以降福島～梁川、福島～飯坂、福島～川俣、川俣～保原間に乗合自動車の運行を開始したが、まだ電車よりも台数が少なく、ガソリン消費規制が実施されるなどして殆んど休業状態におちいり、チンチン電車は福島の社会、経済を支える重責を担うと同時に、栄光を一身に受ける花形スターとなった。

Act 3 躍進から成熟期

終戦の混乱期のインフレは激しく、物価の上昇、物資の不足という苦しい状態の中にも交通需要は依然として旺盛、衰えをみせずこれに対し日と共に困難になる輸送用資材の獲得に努力を払い必死に地域住民の足を守ってきた。昭和3年御大典記念の花電車をはじめ、博覧会記念の花電車、桜まつりの花電車などは、とかくすさんだ人々の気持をやわらげ夢と希望を与えてきた。

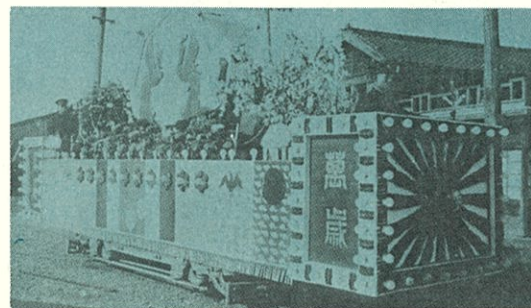


写真9

昭和3年御大典記念花電車

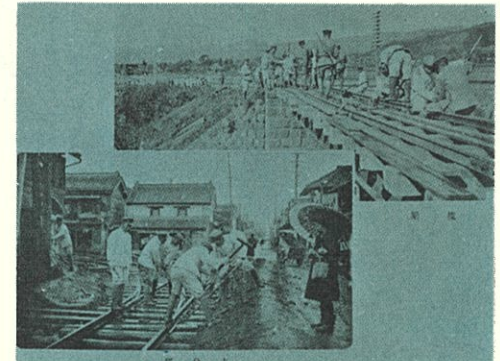
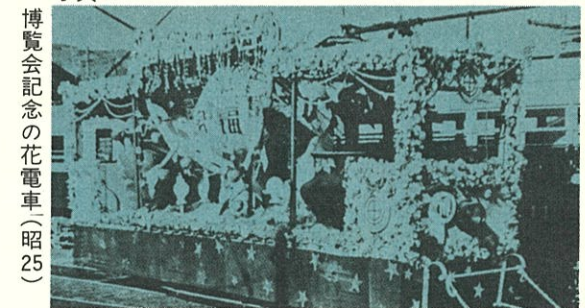


写真7 鉄道第2聯隊によるレール敷設替作業(大正14～15年) 軌間2呎6吋(762mm)→3呎6吋(1,067mm)

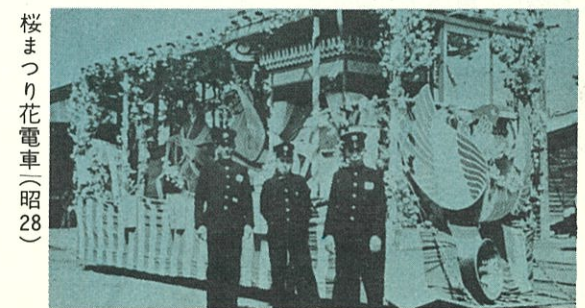


写真8 福島駅前を走る1号電車 軌間3呎6吋 電動機35IP×2 車台4輪ボギートラック 直流600V架空単線式 定員42名

写真10



博覧会記念の花電車(昭25)



桜まつり花電車(昭28)

写真11